

令和7年度「全国学力・学習状況調査」「すすくウォッチ」の結果について

師走の候、保護者のみなさまには益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は本校の教育活動にご支援ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、今年4月17日に「全国学力・学習状況調査」（6年生対象 以下、「学調」）を、同月21日に「小学生すすくウォッチ」（5・6年生対象 以下、「すすくウォッチ」）を実施しました。本調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証することで、児童における教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的としています。調査の結果より、子どもたちがそれぞれの学習の到達状況を知り、今後の学習の改善に繋げてほしいと考えています。また、学校でも児童一人ひとりの学力を向上させるための教育活動を見直し、課題改善のための取組みを進めていきます。

6年生 学調及びすすくウォッチの概要

<学調・国語>

【概要】

本校の平均正答率は国と比較して（以下、対国）－4.8。各問題の正答率もほぼ同じ傾向だが、対国で高い数値を示す問題もある。無回答率は低い傾向にあり、取り組む姿勢に意欲が感じられる。

【特に成果が見られた問題例】

大問2ーと大問3ー。正答率77.8。短文を読んで内容を捉えることに一定の成果が見られた。短答式や記述式に対する無回答率が低く、書くことに意欲的な姿勢が見られる。書く活動の積み重ねにより、例文を真似たり要点を見つかったりしながら文章を書く力がついてきたと考えられる。

【特に課題が見られた問題例】

大問3三（1）。正答率27.8と最も低かった。資料の情報量が多くなった時、必要な情報の選択が苦手であると考えられる。

また、最終問題の記述式については、他の問題に比べて無回答率が高かった。自分の考えを文章で表現することに苦手意識が強く、考えの根拠を用いて説明することが苦手であると考えられる。

<学調・算数>

【概要】

平均正答率は対国、また府と比べて（以下、対府）ともに＋1.0。正答率が最も高かった領域は昨年度に続き「図形」。観点別で見ると知識・技能は対国・府約＋3.0だが、思考・判断・表現は下回った。選択式・短答式の正答率は高い一方で、記述式は対府・国を下回った。無回答率の項目が多い。

【特に成果が見られた問題例】

大問1（4）と大問2（3）。対国約＋10.0。前述の通り、他の問題についても、選択式・短答式については数ポイント高い結果となっている。基礎基本の問題だけでなく、資料の読み取りが必須となる問題にも対応できた結果と考えられる。

【特に課題が見られた問題例】

大問1（2）と大問3（2）。思考のプロセスを言語化することに苦手意識があるようである。目的に応じて適切なグラフを選択し、その理由を言葉や数を用いて表現する力に課題が見られる。長文問題の無回答率が高いのは、問いの内容を読み取る力が弱いためと考えられる。また、問題を読んで計算することはできても、必要な数量を見出すことには課題がある。

<学調・理科>

【概要】

平均正答率は対国で約－3.0。領域別に見ると、対国・府との差が大きいものもある。観点別では大差無い。問題形式では、記述式について対国・府との差が大きく、対策が必要である。

【特に成果が見られた問題例】

大問2（3）。対国＋10.9、対府＋13.0と非常に高い。基礎基本の定着が感じられる。また、無回答率が対国・府ともに下回るかほぼ同じなので、意欲的に取り組んでいることが分かる。

【特に課題が見られた問題例】

大問3（1）。対国－16.5、対府－11.8。教科書の表現との整合性に戸惑った可能性がある。

大問3（2）。顕微鏡の操作について問う問題。児童数が多い中で、一度の授業で一人が体験する機会は決して多くなく、実体験に基づく知識・技能の定着に起因するものではないかと考えられる。

<すすくウォッチ・わくわく問題>

【概要】

平均正答率は対府で＋0.2。全体的に無回答率が低く、9問中7問の解答率は100%。意欲的に取り組む姿勢が見られる。最終問題の無回答率が高く、解答時間が十分でなかった可能性がある。

【特に成果が見られた問題例】

対府で著しく高い結果が出た問題はない。前述の通り、無回答率が低く意欲的な態度が見られたのは良かった。

[特に課題が見られた問題例]

大問1(3)。対府-11.1。自分の考えを、根拠を基に書く力が弱いと考えられる。自分で解答を選択する問題に苦手意識があるとも考えられる。

大問3(3)。対府-6.1。無回答率が高い。自分でアイデアを考えて提案する力が弱いと同時に、最終問題に取り組むことそのものができなかった可能性も考えられる。

5年生 すくすくウォッチの概要

<国語>

[概要]

平均正答率は対府で-3.4。正答数が14問中0~2問という児童は居なかった。全体的に無解答率が高い。後半の短答式の問題から無解答率が大きく上がる。

[特に成果が見られた問題例]

大問2(文中の一字の助詞を正しく使う)、大問7(文を正しく理解し、指示語の指示内容を捉える)。ともに正答率が80以上。思考・判断・表現の書くことについて、対府+0.3。文章を書くことに慣れてきていると考えられる。

[特に課題が見られた問題例]

大問8(示された文の構造や、情報と情報の関係を理解して文の内容を正しく捉える)、大問12(2)(主述の関係を捉えて、文の内容を正しく理解する)の正答率が低かった。長文になると、表現されている内容をイメージすることが困難になっているように感じる。また、漢字とローマ字の書取りの正答率が30前後と低く、更に諺・故事成語の問題は17.9。基礎知識の定着に課題があると考えられる。

<算数>

[概要]

平均正答率は対府-5。特に、短答式・記述式は-6~-10。下位層が上位層に比べて多い。

知識・技能よりも思考・判断・表現の方が、対府の差が大きい。

[特に成果が見られた問題例]

大問2(1)のような選択式は成績が良い。前年度より標準化得点は上がっている。

前年度より知識・技能が+5。得点率は過去4年間で一番高い。

[特に課題が見られた問題例]

記述式の問題が全体を通して正答率が低い。

長文問題では、何を聞かれているのか理解できていないように感じる。問題を読み取り、既習事項を他のところに繋げることに課題あり。

無回答率が高いのも課題。

<理科>

[概要]

平均正答率は観点別・領域別ともに対府全て下回る。エネルギー領域-8.5、地球領域-5.4と単元によって理解度に差が見られる。問題形式別に見ると、特に短答式・記述式が対府差が大きい。

[特に成果が見られた問題例]

特定の問題というよりも、観点別では思考・判断・表現、問題形式では選択式問題で対府の差が小さく、応用力や理解力が一定程度身につけていると考えられる。全体的な基礎学力の土台は形成されていると言える。

[特に課題が見られた問題例]

大問1(2)。対府-6.6。温度計の使い方や地面からの高さについての誤答が-8.6。基本的技能の定着に課題が見られる。

大問2(2)。対府-9.6。大問2(3)①は-21.8、(4)は-13.9。教科書のコラム的扱いの内容で、学習内容と生活の結び付きを意識した授業展開に改善の余地が見られると考えられる。

<わくわく問題>

[概要]

平均正答率は対府-4.7。新たな課題を考え、意欲的に工夫して相手に伝える問題の正答率は対府約-10。主体的に関わったり創造したりする力を問う内容に課題が見られる傾向がある。

[特に成果が見られた問題例]

大問3(1)。正答率が対府±0。但し、無回答率は対府+6.2。

大問2(1)。対府+2.7。生活体験を問題と繋げて考えられることができていますと考えられる。

[特に課題が見られた問題例]

大問3(3)。無回答率が府10.8に対して本校21.4。

大問2(3)。対府-11.7。

平均正答率が対府-4.7で、無回答率も高い。問題を考えられる力や、最後まで粘り強く取り組む力に課題が見られると考えられる。

5・6年生 すくすくウォッチアンケートの概要

[特に成果が見られたアンケート]

問37が対府+7.9、問33が対府+6.6。各クラスでの取組みに対して自分たちで努力して取り組む様子や、学級に対する安心感が見て取れる。

[特に課題が見られたアンケート]

問46が対府+8.1、問65が対府+7.3。授業中、真面目に取り組む一方で、自ら考えて様々な取組みを行うことについては積極的ではない可能性を示唆している。

結果を受けて

<学校が重点的に取り組んでいくこと>

朝学の時間等を活用し、様々な問題形式に触れたり文章を考えたりする機会を増やします。また、粘り強く最後まで取り組む大切さを伝えていきます。

<児童のみなさんに取り組んでほしいこと>

テストだけでなく、日頃の授業で学習する時に、自分なりの考えを持つようにしましょう。

<保護者のみなさまに協力してほしいこと>

学習面はもちろん、生活の中での小さな頑張りを褒めてあげてください。